

中日協力の粘り強さと展望：大使館での交流会にて

北京語言大学学生代表

見学日時：2024年12月2日（月） 14:30-15:30

見学場所：中華人民共和国駐日本国大使館（経済商務処）

見学概要

収穫に満ちた一日が終わろうとする中、私たち一行は「故郷」とも言える中華人民共和国駐日本国大使館（経済商務処）を訪れ、非常に有意義な交流会に参加した。交流会が始まると、大使館の代表者から詳細なデータや実例を基に、中日両国の経済、貿易及び技術協力分野におけるめざましい実績について紹介があった。そして、改革開放以来、中国は日本から進んだ家電製造技術や高速鉄道技術などを導入しており、これらの技術は中国の工業化の進捗を大きく速めたのみならず、両国の人々の生活に極めて大きな変化をもたらしており、現在中国は自動運転、電気自動車、スマートオーダー及びオンライン決済等の最新技術分野において世界が注目する進展を遂げているが、その背後には日本の技術による多くのサポートと協力が存在しているとのお話があった。

その他、省エネ・環境保全や人口高齢化への対策に関し日本が蓄積した経験や技術は両国のより深い協力に新たな可能性を切り拓いている。代表者からは特に、地球の気候変動との課題に対し、中日両国はクリーンエネルギーや低炭素技術の面での協力において非常に大きなポテンシャルがあり、双方は今まさにこうした分野での協力モデルを積極的に模索している。それと同時に、高齢化社会の問題解決における日本の進んだ経験は中国に貴重な学習機会を提供するものであり、双方が技術移転や共同研究等の方法を通じソリューションを模索することが期待されているとのお話があった。

しかしながら、中日協力は順風満帆というわけではなく、近年の国際情勢の変化、特にアメリカによる中日両国のハイテク及び高等教育における協力への干渉は両国関係に一定の不確実性をもたらしている。とは言え、中日関係は依然として粘り強さと知恵を示しており、外部による干渉の克服に努め、絶えず新たな協力の機会を模索している。例えば中東や中央・南アジア市場において中日両国間には一定の競争が存在するが、双方はまた協力の可能性も探っている。中国の機械設備製造における優位性と日本のブランディングや品質管理における強みを融合することで、両国の企業は第三国市場において優位性の相互補完を実現し、共同でより幅広く市場を開拓するなど、ウィンウィンという目標の達成が可能になる。

今回の交流は中日両国の協力関係に関する私たちの知見を深めたのみならず、将来的な両国の様々な分野でのより高度な協力の方向性をはっきりと指し示すものであった。今後も双方が開放的で寛容な姿勢を守ることによって中日協力はきっとより輝かしい明日を迎えると信じている。





ご存じですか？

1. 日本はどういった分野で世界をリードしているのか？

- ①自動車産業：日本は世界をリードする自動車生産国の1つであり、トヨタ、ホンダ、日産等の世界でも有名な自動車ブランドを擁している。
- ②ロボット産業：世界におけるロボットメーカーの52%以上が日本のメーカーである。
- ③食品衛生及び品質管理：日本の食品衛生基準は非常に厳しく、世界において食品衛生管理レベルが最も高い国の1つである。
- ④医療レベル：日本の医療システムは高効率、高品質のサービス及び医療費負担における高い公平性で名高く、世界における医療レベルは常に上位にある。

2. 中日協力はこういった外的要因の影響を受けているのか？

- ①アメリカの要因：アメリカのアジア・太平洋における戦略的配置の調整、特に対中競争戦略は中日関係に影響を及ぼしている。またアメリカの中日両国間における均衡化戦略は往々にして中日関係をより複雑で変わりやすいものにしていく。
- ②地政学的対立：朝鮮半島が含まれる。

感想

今回の中華人民共和国駐日本国大使館（経済商務処）での交流会においては、中日両国の経済、貿易及び技術協力分野におけるこれまでの実績について知見を深めることができました。特に中国が日本から家電製造技術や高速鉄道技術を導入し、それらの技術がどのように中国の工業化の歩みを推し進め、また両国の人々の生活を改善したのかについてのお話を聞き、非常に感銘を受けた。これらの技術は一つひとつの成果の表れであるのみならず、それ以上に両国の人々の知恵と努力の結晶だと言える。

特に自動運転、電気自動車等の最新技術分野において中国の進歩は注目を集めているが、その中で日本の技術によるサポートや協力は重要な役割を果たしている。この点から、技術協力は無機質なデータや実例のみならず、その背後には両国の人々の共通した素晴らしい生活への追求やたゆまぬ努力があることを知った。こうした協力の精神

は人の心を奮い立たせるものであると同時に、両国の将来的な多方面での協力への期待を持たせるものである。

それと同時に、日本の省エネ・環境保全及び人口高齢化への対策に関する経験にも感銘を受けた。地球の気候変動との課題に対し、中日両国はクリーンエネルギーや低炭素技術の面での協力において非常に大きなポテンシャルがあり、これは環境に対し責任を負う行動であると共に後世の人に対し責任を負う行動でもある。こうした協力は技術面の交流である以上に持続可能な発展の理念に対する共同実践である。

外部環境の変化は中日協りに不確実性をもたらしているが、両国が示している粘り強さと知恵そして中東や中央・南アジア市場における協力可能性の追求との点からは協力における大きな将来性を見た思いがした。こうした競争の中で協力を追求する、課題の中で機会を模索するとの姿勢は、両国関係の将来的な発展を楽観視させるものである。

今回の交流会では、中日協力は両国間の問題であるのみならず、それ以上に世界の発展に関連する重要テーマであるとの点を強く感じた。こうした協力は両国の経済発展を推し進めるのみならず、地球規模の問題の解決のための新たな思考の筋道やソリューションをもたらす。両国が開放的で寛容との基盤において引き続き協力関係を深め、これまで以上に輝かしい明日を共に迎えることを願っている。